



USER MANUAL

CROMWELL 250 / FELSBERG 250



タイプBX250 / バージョン EU5.0 / 2020年10月01日

BRIXTON
MOTORCYCLES

はじめに

この度は、本車両をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このモデルは安全性を追求し、耐久性に優れ、毎日のストリートユースに最適なモデルです。スタイルと個性が豊かに表現されたユニークな車両デザインは、あなたの卓越したセンスと、最先端の生活を追求してくれるパートナーとなるでしょう。

オートバイに乗ることは、とても魅力的なスポーツです。ライディングを最大限に楽しむためにも、このライダーズマニュアルに記載されている情報を、初めて乗る前に必ずよくお読みください。

本取扱説明書には、車両の適切なケアと整備について記載されています。長期間、故障なく車両をご使用いただくためにも、本取扱説明書の指示に従ってください。BRIXTON正規販売店には、経験豊かで特別な訓練を受けたスタッフがおり、適切なツールや純正部品を使用して、お客様の車両に最良のサービスを提供することができます。

本取扱説明書に記載されているすべての情報、イラスト、データは、印刷時における最新の情報に基づいています。しかしながら、改良およびその他の変更により、本取扱説明書の情報がお客様の車両を正確に反映しなくなる可能性もございますので、あらかじめご了承ください。



マニュアル内の表記について

このマニュアルでは、大切な情報を以下の表記で区別しています。

▲ 警告 ▲

この表示は、必ず守っていただきたい警告の表示です。この表示を無視して車両を誤って取り扱った場合、人が死亡または重度の障害を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

「注意」は、車両の損傷をできるだけ避けるための特別な注意を示しています。
また、「注意」は、このオーナーズマニュアル内の重要な情報も示しています。

注意

このオーナーズマニュアルは、車両を売却する場合も、メンテナンス／サービス記録用として常に車両と一緒に付帯・保管してください。本書には、車両に関するほとんどの情報が記載されていますが、メーカーによる製品の設計変更や品質の改善によって、マニュアルの情報と車両に相違が生じる場合もございます。
本書に関してご不明な点がございましたら、BRIXTON正規販売店にご相談ください。

マニュアル内の表記について

⚠ 警告 ⚠

このオーナーズマニュアルに記載されている内容は、お客様の安全を守るためのものです。車両を操作する前に、この取扱説明書をよくお読みになり、車両の操作や制御方法について十分ご理解ください。公的に認められた運転免許証を所持し、車両の運用について必要かつ十分なトレーニングを受けた方のみ、公道を走行することができます。優れた運転技術と適正・適時の点検、定められたメンテナンス間隔を守ることが、運転時の安全性を高め、車両の寿命を延ばすことにつながります。

* 製品および仕様は予告なく変更されることがあります。

ディーラースタンプはこちら

目次

はじめに	3	パネルとコントロール系の操作	20
マニュアル内の表記について	5	パネル	20
目次	6	燃油残量インジケータ	20
安全にお乗りいただくために	12	ハイビームインジケータ	20
気をつけていただきたいこと	12	ウィンカーインジケータ	20
日常点検と定期メンテナンス	12	タコメータ	20
安全にお乗りいただくために	12	オドメータ	20
ライディングに適した服装	14	欧州オンボード診断 (EOBD)	20
車両の改造	14	ニュートラルギアランプ	21
積載	14	スピードメータ	21
アクセサリ類	14	ABS	21
アクセサリ類を取り付ける際の注意点	15	メインキー	22
燃料および排気ガス	15	ステアリングロック	22
駐車	16	左ハンドルバー	22
安全運転のヒント	16	ハイ/ロービームの切り替え	22
車両各部の説明	17	ホーンボタン	23
コンポーネント	17	ウィンカーライトスイッチ	23
車両の識別番号	19	クラッチ	23
車両識別番号 (VIN)	19	右ハンドルバー	23
		セルボタン	23
		スロットルグリップ	23
		ヘッドライトスイッチ	23
		ハザードランプスイッチ	24
		フロントブレーキレバー	25

目次

燃料タンク	25	燃油フィルター	37
ギアシフトペダル	26	エアフィルター	37
リアブレーキペダル	26	エアフィルターの交換と清掃	37
サイド/メインスタンド	26	ECU（エンジン制御ユニット）	38
シート	27	スロットルケーブルの遊び	38
シートを外す	27	スロットルケーブルの遊びの調整	39
アンチロックブレーキシステム（ABS）	27	クラッチの遊び	39
乗車前点検	28	クラッチの遊びの調整	39
乗車前点検チェックリスト	29	タイヤ	39
運転の仕方と乗車時の注意点	31	タイヤ空気圧	39
エンジンの始動	31	タイヤ点検	40
発進する	31	リム	41
ギアを変えながら乗る	32	ブレーキ	41
ギアを上げる	32	ブレーキの遊び	41
ギアを下げる	32	ブレーキパッド	42
加減速	33	ブレーキフルード	42
ブレーキ	33	ブレーキフルードの交換	43
エンジン停止/駐車	33	ケーブル	43
慣らし運転	34	スロットルグリップとケーブル	43
定期点検と簡単な修理	35	ブレーキレバーとブレーキペダルへの潤滑	43
スパークプラグ	35	サイド/メインスタンド	43
スパークプラグの点検	35	フロントフォーク	44
エンジンオイル	36	ステアリング	44
オイル交換	37	ホイールベアリング	44

目次

ドライブチェーン	45	保管	52
チェーンの張り	45	短期間（数日間）	52
リアショックアブソーバー	45	長期間（数週間）	52
バッテリー	45	錆止め対策	52
バッテリーを充電する	46	仕様	53
バッテリーを保管する	46		
ヒューズ	46		
ヒューズを交換する	46		
灯火類	47		
ヘッドライト	47		
ウィンカー/テール/ナンバープレートライト	47		
EFiシステム（電子燃料噴射）	47		
燃料ポンプ	47		
燃料フィルター	47		
噴射ノズル	47		
トラブルシューティング	48		
トラブルシューティングチャート	49		
洗車と車両の保管	51		
洗車	51		
洗車前の準備	51		
通常時の洗車	51		
雨天/海岸/塩分のある路面を走行後の洗車	51		
洗車後のケア	52		

安全にお乗りいただくために

気を付けていただきたいこと

ご乗車の前に、本書をよくお読みになり、オートバイの制御、特徴、機能、適切な操作方法をよくご理解ください。本書には安全にお乗りいただくためのヒントが数多く記されていますが、安全に運転するためのスキルやテクニックのすべてを網羅しているわけではありません。

BRIXTON社は、本車両を安全に運転するために必要な適切な知識と技術を習得していただくために、全てのライダーが運転講習などのトレーニングを受講することをお勧めしています。

日常点検と定期メンテナンス

車両を適切に整備し、常に安全に走行できる状態に保つことはとても重要なことです。走行前には必ず点検を行い、メンテナンスは必ず定期的に受けましょう。メンテナンスに関する詳しい情報は、「メンテナンスと修理」の項を参照してください。

また、ライダーの安全を守るためにも、部品は必ず純正部品を使用し、メンテナンスはBRIXTON正規販売店にお任せくださいますようお願いいたします。

安全にお乗りいただくために

事故を防ぐためにも、乗車前の事前チェックは必ず行ってください。運転者、同乗者、荷物を含めた最大積載量を守りましょう。

2輪車の事故の多くは、四輪ドライバーからの2輪車の見落としによって起こります。

見落としによる事故を防ぐためにも、他のドライバーからの視認性の高い服装や、工夫をすることは、ライダーの身の安全を守ることにつながります。

安全にお乗りいただくために

- 明るい色のライディングウエアを着用する。
- 交差点では、曲がる前に方向指示器を作動させ、交差点に進入する際は速度を落として通過すること。
- 他のドライバー(車両)と、適切な車間距離を保つようにし、常に早め早めに自身の動きを知らせるようにして走行しましょう。
- 自分のスキルと限界をよく理解しましょう。
- 車両をむやみに他人(運転資格のない人)に貸さないでください。
- 交通法規を遵守し、特にスピード違反をしないようにしましょう。
- 走行中の車両のバランスを保つためにも、運転者と同乗者、両者とも正しい姿勢での乗車を心がけてください。
- 運転者は両手をハンドルバーに、両足をフットレストに置いてしっかりシートに座ってください。
- 同乗者は両足を同乗者用フットレストに置き、両手は、グラブバーか運転者にしっかりとつかまってください。
- アルコール、または薬物使用下での運転は厳禁です。
- この車両はストリート(公道走行)用に設計されています。オフロード(レーストラックのような走路)での使用には適していません。

安全にお乗りいただくために

ライディングに適した服装

ライディングに適した服装(防護してくれる)は、万が一の事故の際にあなたの身を守ってくれます。

- フェイスシールドの付いたヘルメットは、走行中の誇りや雨粒から目を守ってくれます。
- ライディングに適したジャケットやシューズ、グローブ等は、万が一の事故の際、怪我の度合いを軽くしてくれます。
- ダブついた服装は、レバーやホイールなどに絡みつく恐れがあり、非常に危険です。
- 走行直後のエンジンやマフラーは非常に熱くなっています。火傷の恐れがありますので、絶対にふれないようにしてください。

不用意な火傷を負うことを防ぐためにも、脚やくるぶし、足を覆う服装をしましょう。

車両の改造

無許可の改造を加えたり、純正装備をむやみに取り外すことは、車両の安全性を損なう原因になります。また、改造は違法行為であり、あなたの車両を違法車両にしてしまいます。

積載

運転者や同乗者、荷物を含む最大積載量を超えないようにしてください。積載に関しては、以下のことに注意しましょう。

- 荷物やアクセサリ類は、車両からはみ出したり、高すぎず、できるだけ近い位置に取り付けましょう。

- 積載は、車両の左右前後のバランスが偏らないようにしてください。
- 荷物やアクセサリ類は、落ちたりずれたりしないようにしっかりと固定してください。
- ハンドルバーやフロントフォーク、フロントフェンダーに、重い、あるいは大きな物を取り付けないでください。

アクセサリ類

純正付属部品は、車両の性能を最大限に活かせるように作られています。メーカーは、市場に出回っている汎用品の品質には責任を負いません。汎用品やOEM製品でないものを使用して起こるトラブルに関しては、メーカーは一切保証はしませんので、ご注意ください。

アクセサリを取り付ける際の注意点:

- アクセサリーパーツを取り付ける際は、
- サスペンションの許容範囲を超えたり、ステアリングの動きを阻害したり、または灯火類の機能の妨げにならないようにしてください。
- どうしてもそのような場所に取り付けなければならない場合は、極力軽いものを取り付けるようにしてください。
- 荷物を高く積みすぎたり、不安定な取り付け方をすると、横風の影響を受けやすくなり非常に危険です。
- 不適切なアクセサリの取り付けは、灯火類やエンジン出力をはじめ、車両全般の機能低下をもたらす可能性があります。アクセサリ類の取り付けは、必ず認可を受けたお店で行ってください。

燃料および排気ガス

▲ 警告 ▲

ガソリンは非常に可燃性が高い!

- 給油中は必ずエンジンを切ってください。
- 給油中に高温のエンジンや排気管系統にガソリンがこぼれないよう注意しましょう。
- 給油中の喫煙や、携帯電話の使用は絶対に控えてください。
- 換気の悪い場所でエンジンをかけたり、長時間エンジンを運転させないでください。
- 排気ガスは有害です、多量に吸い込むと意識を失う恐れがあり、最悪の場合死に至ることもあります。
- 車両から離れるときは、必ずエンジンを止め、鍵は抜き取ってください。

安全にお乗りいただくために

駐 車

車両を駐車する際は、以下のことに気を付けてください。

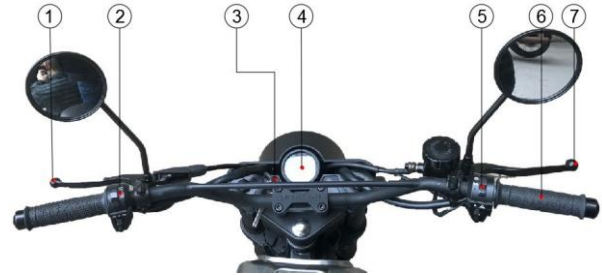
- 走行直後のエンジンとマフラーは非常に熱くなっています。車両を停車する位置は、お子様や動物、あるいは通行人などが触れることのない場所にします。
- 急な斜面や、地面の柔らかい場所に停めると、車両が倒れる恐れがあるので気を付けましょう。
- 発火物や可燃物の近くに車両を停めてはいけません。

安全運転のヒント

- 交差点や角を曲がる際を含め、方向を転換するときは、必ず早めに方向指示器を点滅させてください。
- 雨天時や、濡れた路面を走行するときは、できるだけ速度を抑えるようにし、急ブレーキを避けて早めの柔らかいブレーキをかけることで、タイヤがスリップすることを防ぎます。

コンポーネント

1. クラッチレバー
2. 左ハンドルスイッチ
3. メインキー
4. パネル
5. 右ハンドルスイッチ
6. スロットルグリップ
7. フロントブレーキレバー
8. 前輪
9. フロントブレーキディスク
10. フロントマッドガード
11. フロントブレーキキャリパー
12. フロントウインカー
13. ギアシフトペダル
14. フットレスト
15. エアフィルター
16. 同乗者フットレスト
17. シート
18. 後輪
19. リアウインカー
20. テールライト



車両各部の説明

21. リアブレーキ
22. マフラー
23. バッテリー
24. 燃料タンク
25. リアブレーキペダル
26. 燃料タンクキャップ
27. ミラー
28. ヘッドライト
29. サイドリフレクター



- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. ナンバープレートホルダー | 10. 燃料タンク |
| 2. テールライト | 11. ヘッドライト |
| 3. マフラー | 12. フロントマッドガード |
| 4. 後輪 | 13. フロントタイヤ |
| 5. シート | |
| 6. 同乗者フットレスト | |
| 7. フットレスト | |
| 8. リアブレーキペダル | |
| 9. 燃料タンクキャップ | |



車両の識別番号

車両識別番号（車台番号＝VIN）

車両の識別番号①はステアリングヘッドに刻印されており、改ざん防止ラベル②はステアリングヘッドの左手に貼られています。

注意

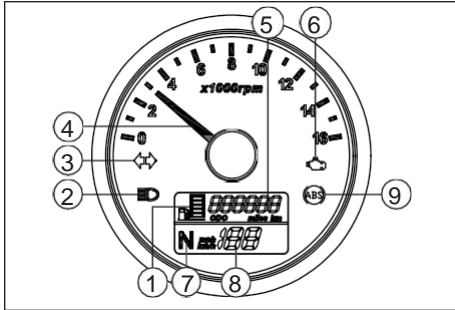
販売店に補修部品を注文したり、車両が盗難に遭った場合に備えて、VIN(車両識別番号)は必ず控えておいてください。車両識別番号は、個々の車両を識別するために使用されており、お住まいの地域の管轄当局に車両を登録する際にも使用するものです。

エンジン番号③はモーターハウジングの左側に刻印されています。



パネルとコントロール系の操作

パネル



1. 燃油残量インジケーター

燃料タンク内の燃料量を示します。燃料が満タンの時はバーが5本表示され、燃料が減るにつれバーの数が減少して、最後の1本が点滅すると給油が必要であることを示します。速やかに給油してください。

2. ハイビームインジケーター

ヘッドライトのハイビームが点灯すると、このインジケーターが点灯します。

3. ウィンカーインジケーター

ウィンカーが点滅しているとき、左右連動するインジケーターも点滅します。

4. タコメーター

タコメーターはエンジンの回転数を0から16×1000rpmまで表示します。

5. オドメーター

総走行距離(ODO)を記録します。

6. 欧州オンボード診断(EOBD)

正常な状態でエンジンを始動せずに電源を入れると、EOBDインジケーターが点灯し、エンジン始動後数秒で自動的に消灯します。消灯せず点滅している場合は故障の可能性があるので点検が必要です。BRIXTON正規販売店にご連絡ください。

7. ニュートラルギアランプ

ギアがニュートラルの場合、ランプが点灯します。



クラッチを操作中にニュートラルギアランプが点灯したときは、ゆっくりとクラッチを戻してニュートラルに入っていることを確認してください。

8. スピードメーター

スピードメーターは車両の走行速度を表示します。メインキーを2回連続で切り替えると、単位(mph:マイル、km/h:キロメーター)を変えることができます。

9. ABS

メインキーをオンにするとABS警告灯が点灯します。走行を開始して時速約5kmに達すると、警告灯は消灯します。走行中にABS警告灯が点灯または点滅する場合、その間はABSが適切に機能していません。このような場合でも通常のブレーキ機能は働きますが、慎重にかけるように心がけ、速やかに販売店にて点検をするようにしてください。

パネルとコントロール系の操作

メインキー



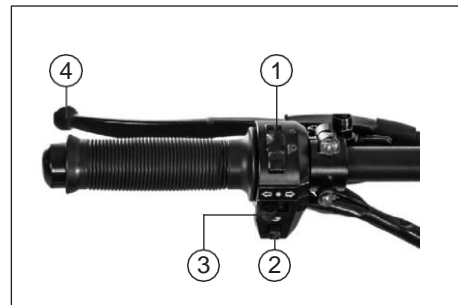
メインキーを時計回りに回すと電源が入り、エンジンを始動することができます。この時キーを抜くことはできません。キーを反時計回りに回すと電源はオフになり、エンジンを始動できなくなります。この時、キーは抜き取ることができます。

ステアリング ロック



ステアリングの右下にあるステアリングロックにキーを差し込みます。ハンドルを左いっぱいに戻し、キーを時計回りに赤い点まで回すとロックが作動し、キーを取り外せません。ロック解除はキーを差し込んで逆に回してください。

左 ハンドルバー



1. ヘッドライトのハイビームとロービームの切り替え

ヘッドライトのハイビームとロービームスイッチを ① に合わせると、ハイビームが点灯し、パネル内のインジケータも点灯します。市街地や対向車がいる時は、対向車のドライバーの視界に影響を与えないよう、ロービームを使用してください。

パネルとコントロール系の操作

2. ホーンボタン

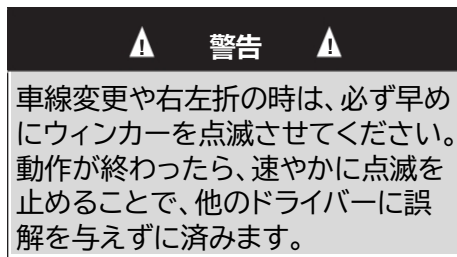
ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

3. ウィンカー・ライト・スイッチ

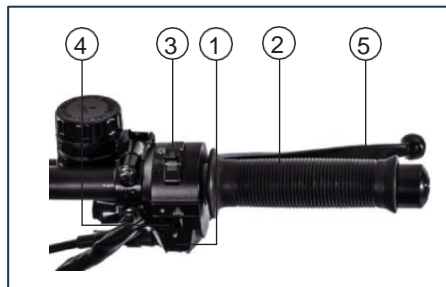
ウィンカースイッチ(3)を左に押し、左のウィンカーとパネルのインジケーターが同時に点滅します。同様にスイッチ(3)を右に押し、右のウィンカーとパネルのインジケーターが点滅します。どちらの場合も、スイッチを中央位置に戻すと点滅が止まります。

4. クラッチ

エンジンを始動したり、ギアを変えるときに、後輪に駆動が伝わるのを切り離します。



右ハンドルバー



1. セルボタン

セルボタンを押すと、モーターが回りエンジンが始動します。

2. スロットルグリップ

スロットルグリップを回転させることで、エンジンスピードをコントロールすることができます。スピードを上げるには手前に回し、下げる時は反対にスロットルを戻します。

3. ヘッドライトスイッチ

☺の位置にすると、デイトムライト、テールライト、ナンバープレートライトが点灯します。☼の位置にすると、デイトムライトは消灯し、ヘッドライト、前後パーキングライトとナンバープレートライトが点灯します。

4. ハザードランプスイッチ

▲にスイッチを入れると、前後左右のウィンカーが点滅し、同時にパネル内の緑色のインジケーターも点滅します。スイッチを●にすると、前後左右のウィンカー点滅、またパネル内のインジケーター点滅も止まります。

5. フロントブレーキレバー

フロントブレーキをかけるには、ハンドルバーの右側にあるフロントブレーキレバーを軽く引いてください。

燃料タンク



ロックカバーを持ちあげ、キーを差し込んだら(1)を時計回りに回転してキャップを外します。キャップを閉めるときは、ガイドを合わせてからクリック音がするまで押し下げてしっかりと閉めます。キーを抜き取って、カバーを閉めてください。

▲ 警告 ▲

- 燃料はタンクに過度に充填せず、液面がタンクキャップ内側のポートの端を超えないようにしましょう。高温のエンジンに燃料をこぼさないように充分気を付けてください。
- 給油中は必ずエンジンを切り、メインキーをオフにします。
- 大気中への燃料の蒸散をふせぎ、エネルギーの浪費や環境汚染の原因とならないように燃料タンクの蓋は必ずしっかりと閉めるようにしてください。
- 給油中は絶対に喫煙しないでください。
- 万が一、こぼれたガソリンがカーボンキャニスター内に侵入すると、キャニスター内の活性炭の効果がなくなってしまうので気を付けましょう。

▲ 警告 ▲

- 燃料タンク内への湿気の侵入を防ぐためにも、キャップの密閉性に問題がないか、常に確認するようにしましょう。

無鉛ガソリンのみ
RON/ROZ95以上



！注意！

バイオエタノールe15-e100は
適合しません

パネルとコントロール系の操作

ギアシフト ペダル



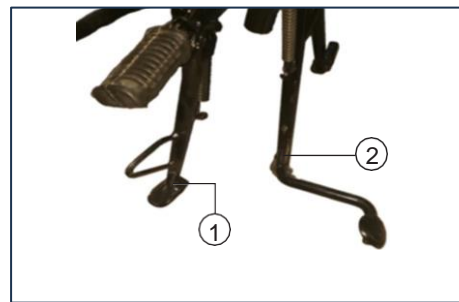
この車両には、5速ギアシフト(ノンサイクル)が装備されており、ニュートラルは1速と2速の間にあります。ギアがニュートラルにあるとき、シフトペダルを押し下げると1速に入ります。ギアをシフトアップするときは押し上げ、シフトダウンするときは押し下げます。ギアの構造上、複数のギアをシフトすることはできません。

リアブレーキ ペダル



リアブレーキペダルを踏み下げてリアブレーキをかけます。同時にブレーキライトが点灯します。

サイドおよびメイン スタンド



サイドスタンド①は、車両の左横にあります。駐車する際にスタンドを押し出して使用します。エンジンがかかっているときにサイドスタンドを出すとエンジンは止まり、そのままの状態ではエンジンはかかりません。スタンドを戻すとエンジンがかかるようになります。

メインスタンド②は、車両の下にあります。スタンドを下げ、車両を後方に引き上げるようにしてかけます。

パネルとコントロール系の操作

注意

車両が倒れる恐れがありますので、勾配のきつい場所に車両を停車させないでください。

シート

シートを外す

1. 車両をメインスタンドの上に立てます。
2. シートボルト①を外します。
3. シートを外します。
4. 取り付けは逆の手順で行います。



アンチロック・ブレーキ・システム(ABS)

ABS(アンチロック・ブレーキ・システム)は、ブレーキを強くかけたときにタイヤがロックするのを防ぐように設計されています。ABSは前輪と後輪の2つの回路で作動し、センサーがタイヤのロックを感知すると、小刻みにブレーキの作動と解除を繰り返しながらロックによるタイヤのスリップを軽減して制動時の安定性を供給します。

ABS作動中は、リアブレーキペダルやフロントブレーキレバーに多少の振動を感じる場合があります。

ABS(アンチロック・ブレーキ・システム)は停止時の安定性を向上しますが、以下のような注意点があるということを忘れないでください：

- ABSは、悪路の状況や、運転者の判断ミス、不適切なブレーキ操作に対して安全性を補償するものではありません。
- ABSは、制動距離を短縮するように設計されているものではありません。ぬかるんだ路面、急な下り坂、凹凸の多い路面では、ABS非装着者より逆に制動距離が長くなる場合がありますので、充分注意が必要です。
- ABSは、直進でブレーキをかけたときのタイヤのロックを防ぎますが、コーナリング中のブレーキによって引き起こされたスリップを制御することはできません。
- ABSは、内蔵されたコンピュータが車速とホイール速度を比較することにより制御が働きます。摩耗していたり修理されていないタイヤでは測定が正しく行われず、制動距離が長くなる恐れがあります。

乗車前点検

車両の状態を良好に保つことは所有者の責任でもあります。使用者(運転者)は、車両の状態が良好であることを確認するために、常に点検を行う義務があります。

重大な事故に至るのを防ぐためにも、下記のいくつかのキーポイント(パーツ)を、ご乗車の前に必ず点検してください。

注 意

乗車前点検は、比較的短時間で簡単に行うことができますので、車両を使用する前には必ず毎回行ってください。点検を行うことは、起こり得る事故を未然に防ぐことにつながります。

▲ 警 告 ▲

乗車前点検で部品に不具合が見つかった場合は、ご乗車になる前に必ず修理を行うようにしてください。ご自身で修理できない場合は、販売店にご依頼をお願いします。

乗車前点検チェックリスト

チェックポイント	確認事項
燃料	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料タンク内の燃料残量を点検する。 • 必要に応じて燃料を補給する。 • 燃料漏れがないか点検する。
エンジンオイル	<ul style="list-style-type: none"> • エンジン内のオイルレベルを点検する。 • 必要に応じて、推奨オイルを指定レベルまで補充する。 • 車両にオイル漏れがないか点検する。
フロントブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> • 動作を確認する。 • 柔らかい、曖昧な感触である場合は、販売店で油圧システムの漏れがないか、点検を依頼する。 • ブレーキパッドの摩耗を点検する。 • 必要に応じて交換する。 • リザーバのフルードレベルを点検する。 • 必要に応じて、推奨ブレーキフルードを規定レベルまで補充する。 • 油圧システムに漏れがないか点検する。
リアブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> • 動作を確認する。 • 柔らかい、曖昧な感触である場合は、販売店で油圧システムの漏れがないか、点検を依頼する。 • ブレーキパッドの摩耗を点検する。 • 必要に応じて交換する。 • リザーバのフルードレベルを点検する。 • 必要に応じて、推奨ブレーキフルードを規定レベルまで補充する。

乗車前点検チェックリスト

チェックポイント	確認事項
スロットルグリップ	<ul style="list-style-type: none"> • 動作がスムーズであるか点検する。 • グリップの遊びが適切であるか点検する。 • 必要に応じて、販売店にて遊びの調整と、注油(潤滑)を行う。
ホイールとタイヤ	<ul style="list-style-type: none"> • 摩耗や損傷がないか点検する。 • タイヤ溝は規定内であるか点検する。 • タイヤ空気圧を点検する。
ブレーキレバーとペダル	<ul style="list-style-type: none"> • 動作がスムーズであるか点検し、必要に応じて可動部に注油(潤滑)する。
メインスタンドとサイドスタンド	<ul style="list-style-type: none"> • 動作がスムーズであるか点検し、必要に応じて可動部に注油(潤滑)する。
シャシー	<ul style="list-style-type: none"> • 全てのナット、ボルトやネジが適切に締まっているか点検し、必要に応じて締め直す。
パネル、灯火類、インジケーター、スイッチなど	<ul style="list-style-type: none"> • 動作状態を確認し、必要に応じて修正、あるいは修理する。

運転の仕方と乗車時の注意点

▲ 警告 ▲


・ご乗車の前に、全ての操作方法とその機能を十分にご理解ください。不明点がある場合は、BRIXTON正規販売店にご相談ください。

・換気の悪い閉め切った場所でエンジンを始動しないでください。排気ガスは有毒であり、吸入すると意識を失い短時間で死に至ることもあります。

エンジンの始動

注意

・慣らし運転については、「エンジンの慣らし運転」の項をご参照ください。

1. メインキーをON  に回します。
2. サイドスタンドを引き上げます。
3. ギアをニュートラルに入れます。
4. フロントまたはリアブレーキをかけます。
5. セルボタン(⊗) を数秒間押します(1)。

注意

・セルボタンは5秒以上押し続けないでください。
・セルボタンを押してもエンジンが始動しない場合は、バッテリーとスターターモーターにダメージを与えないように、数秒間待つてから再始動するようにしましょう。

発進する

注意

エンジンへのダメージを避けるため、発進する前にはできるだけ暖機運転を心掛けましょう。

1. シートにまたがって座り、ミラーの位置を調整します。
2. 進行方向に向かってウィンカーを点滅させます。
3. クラッチレバーを引きます。
4. ギアを1速に入れます。
5. 周囲の交通状況をよく確認します。
6. ゆっくりとクラッチレバーを戻しながら、同時にスロットルを開けていきます。
7. 発進後、ウィンカーは消灯させます。

運転の仕方と乗車時の注意点

ギアを変えながら乗る

a) ギアを上げる

1. スロットルを戻します。
2. クラッチレバーを引きます。
3. シフトチェンジペダルを上を押して上げてギアを上げます。
4. ゆっくりとクラッチレバーを戻しながら、同時にスロットルを開けていきます。

b) ギアを下げる

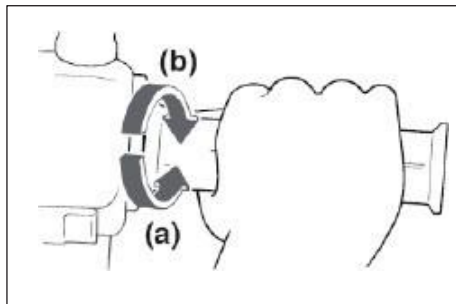
1. スロットルを戻します。
2. ブレーキをかけて、適切な速度まで落とします。
3. クラッチレバーを引きます。
4. シフトチェンジペダルを下を押して上げてギアを上げます。
5. ゆっくりとクラッチレバーを戻しながら、同時にスロットルを開けていきます。

▲ 警告 ▲

トランスミッションにダメージを与える恐れがありますので、ギアは一度に一段階ずつ変えてください。

運転の仕方と乗車時の注意点

加減速



速度は、スロットルの開閉によって調整できます。速度を上げるには、スロットルグリップを(a)の方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを(b)の方向に回します。

ブレーキ

1. スロットルを戻します。
2. クラッチレバーを引きます。
3. フロントブレーキをリアブレーキを同時にかけて始めて、徐々に強くかけていきます。

▲ 警告 ▲

- ・急ブレーキや急停止は極力さけてください。
- ・踏切、路面電車のレール、工事現場の鉄板、マンホールの蓋などは、濡れると非常に滑りやすくなります。そのような場所を通過するときは、速度を落とし注意して走行しましょう。
- ・乾いた路面より、濡れた路面でのブレーキは難しいことを忘れないようにしてください。
- ・平坦な路面に比べ、下り坂でのブレーキも難しいことを留意しましょう。

エンジンを止める / 駐車する

1. スロットルを0位置に戻します。
2. クラッチレバーを引きます。
3. ギアをN(ニュートラル)に入れます。
4. ブレーキをかけます。
5. 車両が完全に停止してから、メインキーをオフにします。
6. メインスタンド、またはサイドスタンドを立てて車両をしっかりと立たせてからメインキーを抜き取ります。

▲ 警告 ▲

エンジンやマフラーは高温になるため、お子様や歩行者が触れない場所に駐車してください。傾斜地や、路面が柔らかい場所は、車両が倒れる恐れがありますので避けましょう。

運転の仕方と乗車時の注意点

慣らし運転

走行距離、最初の1000kmは、速度を最高速の75%程度に抑えて走行してください。スロットルを全開にしたり、不規則なスピードで長距離を走行するのは避けられます。1000kmに達したら、徐々に速度を上げて走行することが出来ます。

注意

- 慣らし運転によって、可動部のメカニズムは相互に適合・硬化します。車両の耐久性と効率性は、慣らし運転中のケアに大きく左右されます。

- ゆっくり走るのではなく、操作はソフトにより注意深い走りを行うことが大切です。この期間中は、車両のパフォーマンスの3/4ほどで運転するようにしましょう。追い越しや、急こう配の坂道を上るなど、スロットルを大きく開けなければならない場合は、極力開けている時間を短く抑えるようにしましょう。

注意

- エンジンオイルは最初の1000kmを走行したら交換してください。オイルは指定された推奨のものを規定量使用してください。

各パーツが最適に調整され、より良い性能を発揮し、また長持ちさせるためには、1000kmの慣らし運転中に無理な運転をしないことが必須です。慣らし運転の最中は、以下の事前注意をよく考慮するようにしましょう。

- エンジン始動後は、スロットルの開度の3/4以上を超えて無理にスロットルを開けることのないよう(1速の場合)、ゆっくりと暖機運転をしてください。
- 長い区間を走る場合、スロットルを長時間全開にしたままにせず、緩急をつけながら走るようにしましょう。
- 急な坂道を上るときは、ギアをローギアに落としてパワーを確保してのばりましょう。
- 長時間走行のあとは、エンジンを急に止めず、速度を最低に落として数秒間走行してから停止させるようにしましょう。
- 期間中は、常に、オイルや燃料、レーキ液の漏れがないことを確認しましょう。
- 車両から異常なノイズが聞こえる場合は後回しにせず、すぐにその原因を特定するようにしてください。

定期点検と簡単な修理

注意

車両を安全に、良好な状態に保つには、いかに正しいメンテナンス、定期的な点検、調整、潤滑を行うかにかかっています。以下の項目では、それらを適切に行うための方法を紹介しています。

▲ 警告 ▲

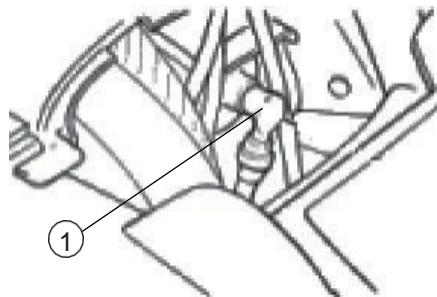
排出ガス制御装置およびシステムの保守整備や交換、再設定は、認定を受けた修理工場(BRIXTON正規販売店)以外では行うことができません。
メンテナンスや修理は、必ずBRIXTON正規販売店にご相談ください。

スパークプラグ

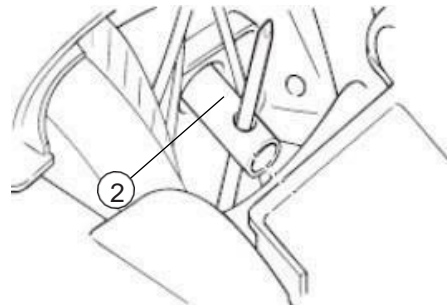
スパークプラグはとても重要なエンジンコンポーネントの一つであり、また容易に点検可能なパーツでもあります。

プラグは、使用していくと熱と堆積物により徐々に劣化していきますので、メンテナンス表に従って点検、交換をしましょう。また、スパークプラグの状態がエンジンの状況を左右することもあることを覚えておきましょう。

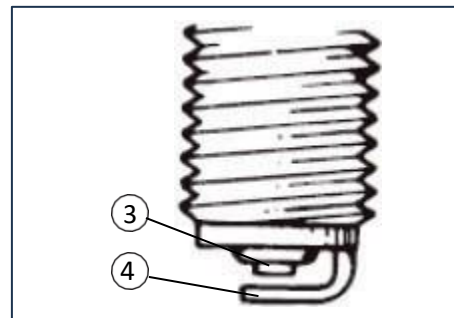
スパークプラグの点検



1. スパークプラグキャップ (1) を外します。
2. スパークプラグをスパークプラグレンチ (1) で取り外します。



3. スパークプラグの中心電極 (2) 周辺の絶縁体が、明るい褐色(通常走行時の好ましい色合い)であることを確認してください。



定期点検と簡単な修理

注意

プラグの絶縁体の色が明らかに変色している場合は、エンジンが適切に作動していない可能性があります。このような場合は自己診断せずに、必ず販売店に相談してください。

4. スパークプラグの電極をチェックします④。腐食や過度のカーボンの堆積、その他の付着物がある場合は必要に応じて交換します。

指定スパークプラグ

NGK DR8EA

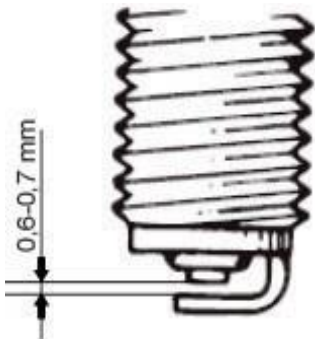
▲ 警告 ▲

エンジンにダメージを与える恐れがありますので、指定されたプラグ以外の使用は行わないでください。

5. ゲージを使用してスパークプラグのギャップを測定し、必要に応じて規定値に合わせて調整します。プラグの表面や電極の付着物をきいに拭き取ります。
6. プラグを取り付け、適切なギャップに調整しながらレンチでしっかりと取り付けます。

スパークプラグのギャップ

0,6 - 0,7 mm



▲ 警告 ▲

スパークプラグの取り付け方や締め付けに詳しくない場合は、販売店に依頼して行ってください。

エンジン オイル

乗車前には必ずオイルレベルを確認するようにしましょう。エンジンの寿命を最大限に引き出すためにも、オイルは指定された品質のオイルを使用するようにします。

1. センタースタンドで車両をしっかりと固定してエンジンをかけます。
2. 約3分後、エンジンを止め、1分間おきます。
3. オイルディップスティックを抜き取り、布で拭きます。再度スティックを差し込んでから抜き取り液面が上・下限の間にあることを確認します。
4. ディップスティックをしっかりとねじ込んで戻します。

定期点検と簡単な修理



①

容量: 1,3 L
MOTUL 5100 4T
4サイクルエンジンオイル
SAE 10W-40

▲ 警告 ▲

オイル補充、交換の際は、必ず適切なオイルレベルを守るようにしましょう。

オイル 交換

エンジンへの不要なダメージを防ぐため、オイル交換やフィルター交換は販売店にて行うようにしましょう。

▲ 警告 ▲

オイル補充、交換の際は、異物が入らないように注意しましょう。
オイルがボディやタイヤに付着しないように十分注意してください。

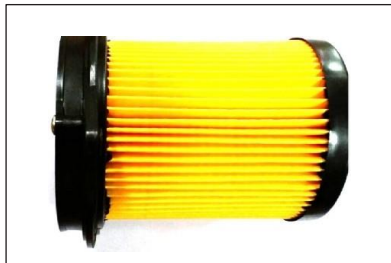
燃油フィルター

燃油フィルターは、ガソリンタンクの下、燃料口(栓)のすぐとりにあります。ガソリンがこぼれ出る危険があるので、十分に気を付けてください。

注意

フィルター交換は、必ず販売店に依頼して行うようにしましょう。

エアフィルター



エアフィルターはメンテナンス表に従って交換しますが、極端に湿気の多い、埃の多いエリアでの乗車が多い場合は、交換頻度が上がります。

エアフィルターの交換と清掃

1. シートを取り外します。
2. 車両の左側のカバーを外します。
3. スロットルボディとエアフィルターを繋げているネジを外します。
4. フレームとECUにつながっているネジを外して、エアフィルターを取り外します。
5. フィルターカバーを止めているネジを取って、フィルターエレメントを外します。
6. フィルターをエアーガンで清掃するか、交換します。
7. 外す時と逆の手順で取り付けます。

定期点検と簡単な修理

エアフィルターが正しくもとの位置に収納され、しっかりと密閉されているかよく確認してください。

注意

- エアフィルターは乾いた状態で清掃するか、専用の洗剤を使用して清掃してください。
- フィルターエレメントが正しくケース内に収められているかよく確認してください。
- ピストンやシリンダーの損傷につながるため、フィルターの設置が不適切なままエンジンを回転させないでください。

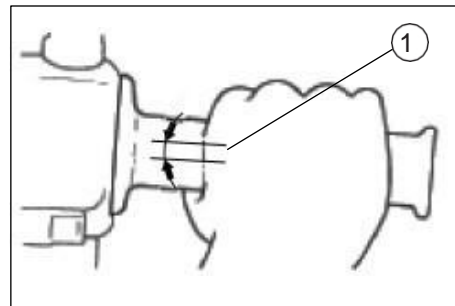
注意

エアクリーナーは、必要に応じて販売店にて交換を行ってください。

ECU (エンジン制御ユニット)

ECUは、排出ガスを制御するうえで、エンジン内で重要な役割を果たしています。非常に高度な知識と技術が必要とする部分ですので、調整を行う際は必ずBRIXTON正規販売店にお尋ねください。

スロットルケーブルの遊び



スロットルケーブル(1)の遊びは、1.5~3.5mmです。

注意

スロットルケーブルの遊びは定期的に点検し、必要に応じて販売店にて調整を行うようにしてください。

定期点検と簡単な修理

スロットルケーブルの遊びの調整

1. ロックナット(1)を緩めます。
2. 調整ナット(2)を回して調整します。
3. 調整ナット(2)を調整した後、ロックナット(1)を締めます。



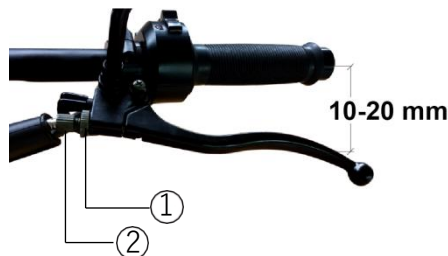
クラッチの遊び

クラッチの遊びは、10～20mmです。

注 意
クラッチの遊びは定期的に点検し、必要に応じて販売店にて調整を行うようにしましょう。

クラッチの遊びの調整

1. クラッチケーブルのカバーを外します。
2. ロックナット(1)を外します。
3. 調整ネジ(2)を回して、調整します。
4. ロックナット(1)を締め直します。



タイヤ

タイヤの安全性・耐久性・走行性能を最大限に引き出して使用するためにも、指定タイヤには下記の点にご注意ください。

タイヤ空気圧

タイヤの空気圧は、走行前に必ず点検し、必要に応じて調整してください。

▲ 警告 ▲

- タイヤの空気圧を測定・調整する際は、必ずタイヤが冷えているとき(外気温と同等)に行うようにしてください。
- タイヤ空気圧は、走行状況や条件によってコントロールする必要があります。慣れない場合は、販売店に相談して行うようにしましょう。

定期点検と簡単な修理

タイヤの空気圧：

フロント：2.3bar

リア：2.3bar

最大荷重*：170 kg

*ライダー、同乗者、荷物、
アクセサリーの総重量

▲ 警告 ▲

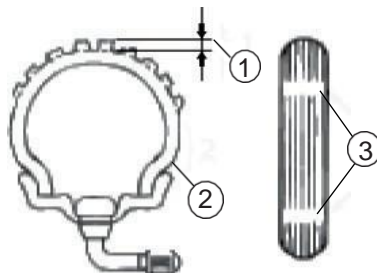
走行前には必ずタイヤを点検してください。

摩耗インジケーター(十字の線)が見えている場合や、釘・ガラス片が刺さっている、または側面にひびが入っているような場合は、販売店にてタイヤの交換を行ってください。

▲ 警告 ▲

過積載は、タイヤ・ブレーキ・ステアリングへの負担を増加させ、破損や事故につながる恐れがあります。車両に積載する荷物と重量を適切に配分することは、車両の性能を維持するとともに、ライダーの安全を守るためにも非常に重要なことです。重い荷物は車両の中央において左右均等に積載し、荷崩れしないようにしっかりと固定することで、ステアリングの妨げにならずに走行することができます。

タイヤ点検



1. タイヤ溝深度
2. タイヤ側壁
3. タイヤ摩耗インジケーター

注意

お住いの地域(国)によって、タイヤの摩耗に関する法律は異なります。居住地の法律に従うようにしましょう。

最小タイヤ溝深度
フロント/リア:1.6mm

定期点検と簡単な修理

▲ 警告 ▲

- ・タイヤが摩耗している状態で走行することは違法であり、また、車両のコントロールを失う恐れがあるので非常に危険です。
- ・摩耗や損傷のあるタイヤは、速やかにBRIXTON正規販売店で交換を行ってください。
- ・タイヤやホイールの修理は、販売店の責任で行ってください。

タイヤ寸法 (サイズ)

フロント : 100/90-18
リア : 120/80-17

リム

車両の性能、耐久性、安全性を最大限に引き出すために、指定ホイールについて以下の点にご注意ください。

- ・ホイールリムのひび割れ、曲がり、歪みはないか、走行前に必ず点検してください。変形や亀裂、損傷がある場合は、自己修理せずに必ず販売店にて交換を行ってください。
- ・タイヤの寿命や安全に走行するためにも、タイヤやホイールの交換を行った場合は、必ずホイールバランスを取ってください。
- ・タイヤ交換を行った際は、慣らし運転が必要です。慣らし運転の間は、控えめな速度で走行してください。

ブレーキ

▲ 警告 ▲

ブレーキレバーを引いたときに、柔らかくあいまいな感じがある場合、油圧システムに空気が混入している可能性があります。その場合は、走行せずに販売店にてエア抜きする必要があります。油圧システムに空気が混入したまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり大事故につながる恐れがあります。

ブレーキの遊び

フロントブレーキの遊び : 10-20mm
リアブレーキの遊び : 20-30mm

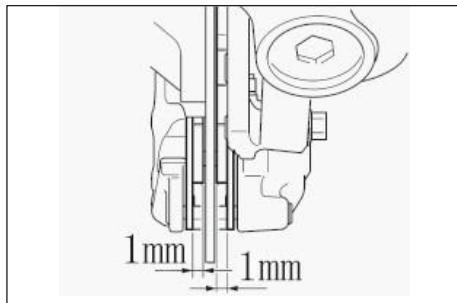
注意

ブレーキの遊びがないと、常時ブレーキをひきずる現象を招きます。定期的に点検し、必要に応じて調整してください。

定期点検と簡単な修理

ブレーキパッド

フロント・リアブレーキパッドは、メンテナンス表に従って定期的に摩耗状況を点検してください。



各ブレーキパッドには摩耗インジケータが付いており、ブレーキを分解することなく摩耗の状態を確認することができます。ブレーキをかけながら摩耗インジケータの位置を確認してください。

パッドのインジケータがブレーキディスクに接触するようであれば、速やかに販売店にて交換を行ってください。

ブレーキフルード

▲ 警告 ▲

ブレーキフルードの不足は、システムへの空気混入を招き、ブレーキの効きを悪化させる恐れがあります。走行前に、液レベルが最小ラインより上であることを確認し、必要に応じて補充してください。

- 液レベルが低い場合は、システムからの液漏れが起こっている可能性があります。同時にパッドの摩耗も確認してください。
- 液レベルを点検する際は、ハンドルを回して、マスターシリンダーの上端が水平になるよう調節してから行ってください。

- 推奨品質以外のブレーキフルードの使用は、シール（ゴム製）の劣化を起こしやすく液漏れの原因となり、ブレーキの性能を著しく下げる恐れがありますのでやめましょう。

MOTUL DOT 3 & 4 ブレーキフルード

（未開封の容器から取り出したブレーキフルードのみ使用すること）

- ブレーキフルードを補充する際に、他のもの（開封済みのものを含む）を混ぜると有害な化学反応を起こし、ブレーキ性能を著しく損なう恐れがあります。
- 水は、ブレーキフルードの沸点を著しく下げ、蒸気を発生させる恐れがあります。補充の際は、マスターシリンダー内に水が浸入しないように十分注意してください。

定期点検と簡単な修理

- 塗装面やプラスチック部品を劣化させる恐れがありますので、こぼれたブレーキフルードは速やかに清掃してください。
- ブレーキパッドが摩耗するにつれて、フルードレベルが徐々に下がるのは正常なことです。ただし、液レベルが突然下がるような時は異常が考えられますので、販売店に相談してください。

ブレーキフルードの交換

▲ 警告 ▲

ブレーキフルードの交換は、メンテナンス表に従って販売店にて行ってください。

ケーブル

毎乗車前には、全てのケーブルの動作や状態を確認し、必要に応じてケーブルエンドに注油します。

ケーブルの損傷が見つかった場合は、販売店にて点検・修理を行ってください。

▲ 警告 ▲

ケーブルのカバーの損傷は、ケーブルの錆を引き起こして動作不良の原因となります。事故につながる前に、修理や交換を行ってください。

スロットルグリップとケーブル

毎乗車前には、スロットルグリップとそのケーブルの動作や状態を確認します。スロットルケーブルは、メンテナンス表に従い必ず注油（潤滑）を行ってください。

ブレーキレバーとブレーキペダルへの注油（潤滑）

ブレーキレバー/ペダルの可動部は、メンテナンス表に従い必ず定期的に注油（潤滑）を行ってください。

サイドスタンド メインスタンド

注意

毎乗車前には、サイド/メインスタンドの動作を必ず点検し、必要に応じて可動部（鉄と鉄の接合部など）に注油（潤滑）を行ってください。

▲ 警告 ▲

定期的な潤滑を行っていても、サイド/メインスタンドがスムーズに可動しない場合は、販売店にて修理・交換を行ってください。

定期点検と簡単な修理

フロントフォーク

フロントフォークは、メンテナンス表や潤滑表に従い、必ず定期的に点検と潤滑を行ってください。

▲ 警告 ▲

点検時はいつも、車両が倒れないように安全な場所にしっかりと固定して行ってください。

1. 車両を垂直・水平に駐車させてください。
2. フォークからのオイル漏れや傷、損傷がないか点検します。
3. フロントブレーキをかけ、ハンドルを数回強く押し下げて、フォークのサスペンションの動作を確認します。

▲ 警告 ▲

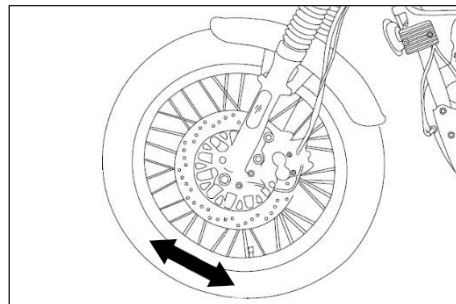
潤滑を行う際は、タイヤやブレーキに潤滑剤が触れないように注意し、修理・交換が必要な時は販売店にて行ってください。

ステアリング

▲ 警告 ▲

ステアリング・ベアリングの摩耗や損傷は大きな事故につながる恐れがあります。メンテナンス表に従い、必ず点検と潤滑を行ってください。

1. 車両をスタンド等、適切な台に設置して前輪が地面から浮くようにします。
2. フォークの下端を手で持ち、前後に動かしてみます。
3. この動作で遊びが見つかるようであれば、販売店にて詳しく点検・修理を行ってください。



ホイールベアリング

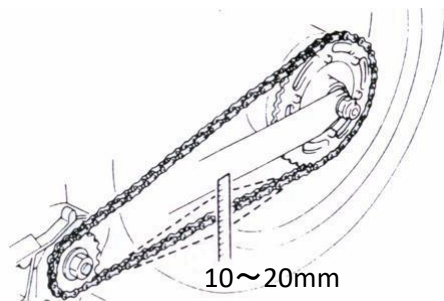
ホイールベアリングは、メンテナンス表や潤滑表に従い、必ず定期的に点検と潤滑を行ってください。

注意

ホイールハブの遊びや、ホイールの動作がスムーズでない場合などは、販売店にて点検・修理を行ってください。

定期点検と簡単な修理

ドライブ・チェーン



チェーンのテンション（張り）が強すぎると、チェーン本体・スプロケット・後輪ベアリングに必要以上のストレスがかかり、早期摩耗やチェーンの破損につながります。一方、チェーンにたるみ（ゆるみ）がありすぎると、チェーンホイールからチェーンが飛び出し、後輪に干渉したりエンジンを損傷する恐れがあり非常に危険です。

チェーンの張り

1. アクスルナットを弛めます。
2. カウンターナットも弛めます。
3. 左右の調整ネジを均等に回します。
4. タイヤ左右の調整ネジを回して、適切な遊びに調整してください。チェーンの遊びは、10~20mmです。
5. カウンターナットとカラーナットをしっかりと締めます。

リアショックアブソーバー

▲ 警告 ▲

ショックアブソーバーのダンパユニットには、高圧縮窒素が充填されています。怪我をする恐れがありますので、絶対に分解しないでください。

バッテリー

▲ 警告 ▲

- ・バッテリーに持続的な損傷を与える恐れがありますので、ベントシールは絶対に剥がさないでください。
- ・バッテリー液は有毒で、重度の火傷を引き起こす硫酸が含まれています。
- ・皮膚、目、衣服への接触を避け、バッテリーの近くで作業をするときは、必ず目を保護するようにしてください。
- ・バッテリー液に触れてしまったら、ただちに応急処置を施します。
- ・皮膚や目に接触した場合は、大量の水で洗い流してください。
- ・誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合は大量の水を飲んでください。
- ・いずれの場合も、出来るだけはやく医療機関を受診してください。

定期点検と簡単な修理

▲ 警告 ▲

- ・バッテリーは爆発性の水素ガスを発生します。屋内作業の際は、火気、喫煙などの可燃物を近づけないでください。
- ・バッテリーの保管は、お子様の手の届かない場所に保管してください。

バッテリーを充電する

車両にオプションの電装アクセサリーが装備されている場合、バッテリーの放電が速くなる可能性があります。それ以外の異常なバッテリーの過放電があれば、速やかに販売店で点検、再充電してください。

バッテリーを保管する

- ・ 1ヶ月以上車両を動かさないときは、バッテリーを取り外し、満充電してから乾燥した涼しい場所に保管してください。
- ・ 2ヶ月以上保管する場合は、1ヶ月に一回は点検し、必要に応じて満充電してください。
- ・ 再使用する前には、必ず満充電してください。
- ・ 車両に取り付け後、リード線がバッテリー端子に正しく接続されていることを確認してください。

▲ 警告 ▲

バッテリーの取り扱いに慣れていない方は、販売店に依頼してください。

注意

放電したバッテリーを放置すると、バッテリーに永続的なダメージを与えます。バッテリーは常に充電しておくようにしましょう。

ヒューズ

ヒューズはシート下にあります。ヒューズが頻繁に切れるときは、回路のショートか、過負荷が考えられますので、速やかに販売店にて点検を受けてください。

ヒューズを交換する

1. メインキーをオフにして電装品を含む全ての電源を切ります。
2. 切れたヒューズを取り外し、規格内のヒューズを取り付けます。

▲ 警告 ▲

火災を起こす恐れがありますので、指定外の高アンペアのヒューズは絶対に取り付けないでください。

3. メインキーをオンにして全ての電装システムの動作を確認します。
4. ヒューズがすぐに切れてしまう場合は、販売店に依頼して点検・修理を行ってください。

定期点検と簡単な修理

灯火類

ヘッドライト

本モデルには、ハロゲンバルブのヘッドライトが装備されています。ヘッドライトバルブが切れた場合は、BRIXTON正規販売店で交換を行い、必要に応じて光軸の調整を行ってください。

ウィンカー、テールライト、ナンバープレートライト

ウィンカー、テールライト、ナンバープレートライトにはLEDが装備されています。これらのライトの点灯不具合があれば、販売店にて電装回路の点検・修理を行ってください。

EFiシステム（電子燃料噴射）

燃料噴射システムは 燃料ポンプ、燃料フィルター、燃料ライン、噴射ノズルラインと噴射ノズルから構成されています。

注 意

燃料ライン（チューブ等）は、押しつぶしたり曲げたりしないでください。

燃料ポンプ

燃料ポンプは、加圧された燃料をフィルタを経由して噴射ノズルに送ります。ポンプは燃料タンク内にあります。

燃料フィルター

燃料フィルターは、燃料内の不純物をろ過します。

注 意

燃料フィルターは、メンテナンス表に従い、BRIXTON正規販売店にて行ってください。

噴射ノズル

噴射ノズルはエンジン・コントロール・ユニット（ECU）によって制御され、エンジンに適切な量の燃料を供給します。

トラブルシューティング

車両は工場出荷前に徹底的な検査を受けていますが、使用していくうちにトラブルが発生することがあります。例えば、燃料システム、圧縮系統、点火システムに問題が起こると、始動不良やパワーロスを引き起こします。

以下のトラブルシューティングチャートは、これらの重要なシステムを自分でチェックするための簡易的な手順を示しています。これらのセルフチェックにより、さらに車両の修理が必要な場合は、必要とされるツールや経験、ノウハウを備えたBRIXTON正規販売店に持ち込んでください。

交換部品は、純正部品のみを使用してください。模造部品は一見純正部品のように見えますが、粗悪品であることが多く、耐用年数も短い場合が多いので、結果的に高額な修理代がかかることがあります。

▲ 警告 ▲

燃料システムの作業中は、絶対に火気を遠ざけるようにしてください。

トラブルシューティング

トラブルシューティングチャート

トラブル	原因	対処
セルを押してもエンジンが始動しない	バッテリー放電/ヒューズが切れた	バッテリーの充電状態を確認する バッテリーを充電する 発電機が正しく作動しているか確認する
	スターターリレー不良	スターターリレーの点検
	スターターモーターの不良	スターターモーターのチェック
	ロールオーバーセンサーの誤った組み立て	ロールオーバーセンサーの位置をチェック
	ヒューズが切れた	ヒューズのチェック
エンジンは回るが始動しない、または停止する	アイドル回転数が正しく設定されていない	アイドル・スピードの調整
	スパークプラグが汚れている	スパークプラグの清掃、電極距離のチェック
	点火システムの故障	点火システムのチェック
	ワイヤーハーネスの摩耗	ワイヤーハーネスのチェック
	プラグの接触不良	ワイヤーハーネスのプラグのチェック
	ガソリンが入っていない	ガソリン補給
	燃料ポンプの問題	ポンプの点検
	燃料フィルターの問題	フィルターのチェック
	燃料漏れ	燃料回路のチェック
エアフィルターの汚れ	フィルターの清掃	
エンジン出力が悪い	燃料フィルターの汚れ	フィルターの清掃
	燃料システムの故障	燃料システムのチェック
	点火システムの問題	点火システムのチェック
	バルブクリアランスが小さすぎる	バルブクリアランスの調整

トラブルシューティング

エンジンのオーバーヒート	エンジン回転数が高いのに、走行速度が低い か、あるいは回転数が低い状態で、長時間 運転 エンジンオイルのレベルが高すぎる	エンジンを止めてクールダウンさせる 原因となる走行状態・状況を回避する (特に交通渋滞を避ける)
高いオイル消費	シリンダー/ピストンが摩耗している 排気ホースが曲がっている	シリンダーピストンを交換する ホースのレイアウトを修正する
エンジン警告灯の点灯	燃料噴射/電気系統の故障	販売店に連絡して故障を特定する

洗車と車両の保管

洗車

適切な方法で車両を洗車し綺麗な状態に保つことは、車両のパフォーマンスを上げるとともに、寿命を伸ばすことにもなります。

洗車前の準備

- マフラーが冷えるのを待って、マフラー口にビニール袋等を被せて水の侵入を防ぎます。
- フタやカバー、電装品の接合部など、極力水が浸入しないように閉めて覆いをします。

注意

- 酸性洗剤は使用しないでください。もし頑固な汚れなどで使用したら場合は、すぐに洗い流して乾燥させ、腐食防止スプレーを塗布します。
- お手入れの仕方については、製造者の指示に出来るだけ従うようにしましょう。

- 水のみ、または水と中性洗剤、あるいは販売店などで薦めるマイルドな洗剤だけで洗車してください。洗車後は、乾いた柔らかい布やスポンジでプラスチック部分を優しく拭き取ってください。
- プラスチック部分、塗装面、ヘッドライトなどのガラス面は、ガソリンや錆び落とし剤、ブレーキクリーナーなどの刺激の強い薬剤から守るようにしてください。
- 高圧洗浄機やスチームクリーナーは使用しないでください。これらは、スイッチや灯火類などの電装品に浸水したり、ブレーキシューやブレーキライニング、シールや塗装面を損傷させる恐れがあります。

通常時の洗車

水またはぬるま湯と中性洗剤を使用して柔らかいスポンジ等で優しく洗います。届きにくい部分は歯ブラシなどを使用して優しく洗いましょう。

雨天時、海の近く、塩分のまかれた路面を走行後の洗車

特に、冬季間に路面にまかれる塩分（融雪剤）は、水分と一緒に非常に腐食性が高まります。そのような路面を走行したあとは、必ず以下の手順に従いましょう。

注意

- エンジン/マフラーが冷えるまで待ちましょう。
- 基本的に冷たい水か常温水で、中性洗剤を使用して洗います。
- お湯を使用しての洗車は腐食を進行させる恐れがあります。
- クローム/ニッケルメッキを含む全ての金属面に防錆スプレーを塗布しましょう。

洗車と車両の保管

洗車後のケア

- 車両を乾燥させます。
- 金属面には防錆スプレーを施し、塗装面にはワックスをかけておきます。

▲ 警告 ▲

- ブレーキやタイヤにオイルが付着していないかよく確認します。
- 必要に応じて、ブレーキディスククリーナーでブレーキディスクを清掃、温水と中性洗剤でタイヤを清掃します。
- 乗車前に、ブレーキの利き具合やタイヤの状況をよく確認します。

保管

短期間（数日間）

乾燥した涼しい場所に保管し、必要に応じてカバーで覆ってください。

長期間（数週間）

車両を洗車し、燃料を満タンにします。可能であれば、安定剤を加え、タンクの錆や燃料の腐敗防止を施します。

錆止め対策

シリンダーやピストンリングを錆から守るために、以下の手順に従ってください。

1. スパークプラグを取り外します。
2. プラグホール（穴）にティースプーン1杯ほどのエンジンオイルをたらします。
3. セルボタンを数秒間押してエンジンを数回回転させ、シリンダー内にオイルを循環させます。
4. スパークプラグを戻して、プラグキャップをしっかりと閉めます。

▲ 警告 ▲

この作業をしている間、スパークプラグが車両の金属部に触れないよう気をつけてください。レバーやペダル、フットレストやサイドスタンドといった可動部分への注油（潤滑）を忘れないでください。

- タイヤ空気圧を調節し、可能であれば前後両輪とも地面から離して保管します。これが無理であれば、毎月ごとにタイヤを回して接地面を変えてください。
- 湿気が入り込まないように、マフラー口をビニール等（ラップなど）で覆います。
- バッテリーを外し、満充電して乾燥した涼しい場所（0~30℃）に保管して最低でも2ヶ月に1度は再充電してください。

仕様

クロムウェル250

モデル

フェルスベルク250FT



寸法・重量

長さ

2020mm (クロムウェル250) 、 2050mm (フェルスベルク250FT)

幅

850 mm

高さ

1105mm (クロムウェル250) 、 1120mm (フェルスベルク250FT)

仕様

ホイールベース	1320mm(クロムウエル250)、1345mm(フェルスベルク250FT)
車重	145kg(クロムウエル250)、155kg(フェルスベルク250FT)
最大積載量	170kg
許容最大積載重量	315kg(クロムウエル250)、325kg(フェルスベルク250FT)





エンジン

タイプ	単気筒4ストロークエンジン、OHC、 4バルブ/シリンダー、空冷
シリンダー配列	前傾シングルシリンダー
排気量	249 ccm
圧縮比	8,9 : 1
ボア	72,0 mm
ストローク	61,2 mm
最大出力	12,6 kW @ 7500 min ⁻¹
最大トルク	16,5 Nm @ 6500 min ⁻¹
潤滑	強制潤滑
点火	ECU
スターター	電気スターター

仕様

スパークプラグ	NGK DR8EA
定常ノイズ	84 dB(A) @ 3750 ^{min-1}
L都市部の限界値	77 dB(A)
トランスミッション	
トランスミッション	5速マニュアル
ファイナルドライブ	ドライブチェーン
クラッチ	オイルバス、多板クラッチ

仕様

液体		
エンジンオイル仕様	MOTUL 5100 4T SAE 10W-40	
エンジンオイル量	1,3 L	
ブレーキフルード仕様	MOTUL DOT 3&4 BRAKE FLUID	
燃料		
燃料仕様	無鉛燃料のみ、RON/ROZ95以上	
燃料量	11,5 L (クロムウエル 250) 14,5 L (フェルスベルク 250FT)	 
 警告 	バイオエタノール燃料e15-e100は使用できない！	
シャシー		
フロントサスペンション	テレスコピック・フォーク	

仕様

リアサスペンション	ダブルショックアブソーバー付きスイングアーム
走行性能	
最高速度	時速114キロ
燃料消費量	3,1 L/100 km
CO2排出量	71g/km (クロムウェル250) 73g/km (フェルスベルク250FT)
最大勾配	25 %

ブレーキシステム

フロントブレーキディスクサイズ Ø	276 mm
リアブレーキディスクサイズØ	220 mm
フロントブレーキキャリパー	油圧式2ピストンブレーキキャリパー
リアブレーキキャリパー	油圧式2ピストンブレーキキャリパー
ABS	フロントとリア
ホイール	
フロントリムサイズ	2.50 x 18
リアリムサイズ	3.00 x 17
フロントタイヤ寸法	100/90-18 チューブレス
リアタイヤ寸法	120/80-17 チューブレス
フロントタイヤの空気圧	2,3バール
リアタイヤの空気圧	2,3バール

仕様

ライト	
ヘッドライトの仕様	12V、35W/35W
フロントポジションライト仕様	12V、LED
ターンランプ仕様	12V、LED
テールライト/ ブレーキライト仕様	12V、LED
ナンバープレートライト仕様	12V、LED

仕様

バッテリー	
電圧	12 V
容量	9 Ah
フューズ	
充電ヒューズ	15 A
メインヒューズ	15 A
EFIシステム	10 A
アンチロック・ブレーキ・システム (ABS)	25 A



著作権 ©2020

無断転載を禁じます。

このユーザーマニュアルには著作権があります。

製造者の書面による許可なく、機械的、電子的、またはその他の形式で複製することを禁じます。

著作権:

KSR Group GmbH

製造元

KSR Group GmbH
日本国内販売元
MOTORISTS LLC
モータリスト合同会社



BREXTON
MOTORCYCLES